



50周年記念シンボルマーク

Monthly Report

SENDAI UNIV.

PUBLIC RELATIONS

Vol.139 / 2017 .NOV

(月1回発行)

本学開学50周年記念 「第13回スポーツシンポジウム」 開催



トークセッションに出演したマーティ・キーナート氏、田尾氏、山下氏（左から）

11月30日（木）、「せんだいメディアテーク」を会場に、仙台大学開学50周年記念第13回スポーツシンポジウムが『野球の楽しみ方、支え方、伝え方』～2020東京オリンピックを契機に野球の更なる発展を考え、東北を元気にする～をテーマに開催され、おかげさまで約370人の方々においでいただき立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

トークセッションでは、東北楽天創設時のゼネラルマネージャーであった本学上級研究アドバイザーであるマーティ・キーナート氏を進行役に、初代監督の田尾安志氏、初年度のヘッドコーチや2軍監督、編成部長などを務めた山下大輔氏の3名が創設1年目の苦労などを振り返りました。特に田尾氏は、地域に受け入れられる球団として「ファンが何を望んでいるかを考えるのが良い球団」と強調、山下氏は「楽天は球場をエンターテインメントにして仙台のファンを集め、チームに力をもらった」と語りました。

また、引き続き行われたパネルディスカッションでは、本学硬式野球部監督の森本吉謙教授、仙台育英高校硬式野球部監督の佐々木順一郎氏、野球侍ジャパン女子代表監督の橘田恵氏の3名がコーディネーターを務めた宮西智久教授とともに2020年東京五輪を念頭に競技発展の在り方や、野球人口減少の中で考えるべきこと、各指導者の立場からの野球の楽しみ方、野球界やそれぞれのカテゴリーで抱える問題などについて、各バネリストから熱心な討論がなされ野球競技発展の在り方についてなどを討議しました。

このスポーツシンポジウムは仙台市・河北新報社・仙台大学共催、スポーツコミッションせんだい協力により開催されているもので、今年で13回目の開催となりました。

〈目 次〉

開学50周年記念 「第13回スポーツシンポジウム」開催	1
・ 本学第10期卒業生「還暦同期会」開催 ・ 運動栄養学科「給食運営実習Ⅰ」	2
・ 「柴田町フットパスの集い2017」開催 ・ 第39回みやぎ大菊花展柴田大会 ・ 魚津市長が本学へ表敬訪問	3
・ 阪神タイガース ドラ1の馬場皐輔投手 背番号は「18」 ・ 仙台大学親睦会総会・忘年会 開催	4
・ 軟式野球部の千葉亮太選手 日本代表に初選出 ・ 女子バスケットボール部大会結果	5
・ ウエイトリフティング部大会結果 ・ CSULBのカールトン・フォルテン ベリーさんテレビ東京「YOUは何しに日本へ？」で放送予定	6

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

本学第10期卒業生「還暦同期会」開催 熊本から北海道まで50人が参会 母校に開学50周年寄金

11月18日（日）に同期生41名に朴澤理事長・学事顧問、阿部学長はじめとすご来賓、恩師など9名の計50名の参加者で開催しました。

この会は、還暦という人生の節目を機に卒業生が一同に会し懐かしい友や恩師と再会し、お互いの近況を語り合い旧交を温めることなどを目的として、一昨年第8期生の同期会から始まり今回の10期生で3回目の開催となりました。当日は午後3時に船岡駅前の会場に集合して38年ぶりの再会、顔合わせをして大学の開学50周年記念に寄金を満場一致で決定しました。4時からの懇親会では代表幹事から朴澤理事長・学事顧問に寄金を贈呈。久しぶりに再会する部活動仲間や友人、恩師との話に盛り上がり自己紹介で出る当時のエピソードに笑いと拍手が起こるなど時間たつぷりと旧交を温め合いました。最後に校歌を声高らかに歌い、12名参加のサッカー部代表のエールで会を締めとお開きとなりました。その後、近くの居酒屋へ総移動しての二次会でも、苦楽を共にした仲間との語らいは尽きることがありませんでした。

翌日は大学に9時に集合して施設設備の見学。当時から現存の第一体育館、第二体育館、特に思い出深いC棟330教室では皆で懐古し記念写真、最新のトレーニング施設や体育館等には驚嘆と羨望、大きく発展した母校に今後の期待を寄せながら同期会を終えました。



久しぶりの再会を祝した記念撮影

【報告：同窓会事務局長 大河原 則夫】

毎年好評の運動栄養学科「給食運営実習Ⅰ」

10月19日～12月15日までの毎週木曜と金曜（12月5日のみ火曜）の全16回、栄養士免許取得のための必修科目「給食運営実習Ⅰ」（3年次開講）で、給食運営能力を修得することを目的とした大量調理の実習が行われています。実習では①栄養バランスや彩りを考えた献立づくり、②発注業務、③調理作業、④衛生管理まで一連の作業を、学生が主体となり食事の提供を行っています。出来上がった給食は調理した学生が自ら検食するほか、食材相当額の食券を給食メニューとして希望する教職員へ販売しています。12月の実習についても、食券予約に余裕のある日もあるそうですので興味のある教職員は運動栄養学科新助手の山田・山上・菅原（助手研究室内線809）にお問い合わせください。教職員の皆様のご協力をお願い致します。



でき上がった給食を試食する教職員と運動栄養学科の学生

メニュー考案者「栄養士役」の運動栄養学科3年の学生たち

「メンチカツは作業工程も多いため、提供時間に間に合うよう手際よく、かつ火が通りやすい大きさとで大量調理できるよう総動員で作業しました。また、カルシウム量が多い切干大根を気軽に食べられる和風サラダにしてメニューに取り入れました。」と4人を代表し三浦花奈子さんと工藤るり子さんが話してくれました。



（左から）丹野昂さん、工藤るり子さん、三浦花奈子さん、藤山貴裕さん

「柴田町フットパスの集い2017」が開催されました

11月4日(土)、「柴田町フットパスの集い」が昨年の第1回大会に引き続き、仙台大学を中心とした柴田町内で開催されました。参加者はボランティアも含め約130名で、遠くは秋田県の由利本荘市から参加された方もおりました。

「フットパス」はイギリス発祥で森林や田園地帯、古い街並みを歩き自然を楽しみながら地域の歴史や景観を楽しむものです。開会式では柴田町の滝口茂町長が「沢山の魅力がある柴田町を感じて歩いて下さい」と御挨拶され、又、各コースについてのフォーラムも開催され、運動栄養学科の岩田純准教授が開発された柴田町の特産物を使った昼食を食べた後、船岡城下町コース・槻木コース・船迫宿コース・富上里山コースの4コース(11グループ)に分かれ、史跡各所解説を聞きながら町内を約2時間かけて歩きました。グループにはそれぞれに本学学生ボランティアが帯同し、写真撮影をしたり交通整理をしたりと活躍し、参加者の方々と共に柴田町の良いところを再発見していたようです。

閉会式の挨拶でしばたの未来株式会社様の平間様から、来年は柴田町においてフットパスウォークイベントの全国大会が開催予定であることが紹介され、来年も是非参加して頂きたいとお話され、大会を締めくくりました。



(上) 本学学生食堂「なちゅら」で行われた開会式
(下) コースを歩く参加者たち

【報告：スポーツ健康科学研究実践機構 小川 亜紀】

平成29年度 第39回みやぎ大菊花展柴田大会

10月20日～11月13日の25日間、「花のまち柴田」秋の風物詩、第39回みやぎ大菊花展柴田大会が船岡城址公園を会場に絢爛豪華に開催されました。

会場には県内7市3町12団体による菊の愛好家たちが丹精を込め育てた見事な菊の作品総鉢数2,417点が立ち並び来場者を楽しませました。今年の「仙台大学学長賞」は奥山公彦さんの「兼六香菊(大菊の部)」に決まり11月24日には柴田町役場で表彰式が行われ阿部学長から賞状と楯が手渡されました。



奥山さんに賞状を手渡す阿部学長

魚津市長が本学へ表敬訪問されました

12月4日富山県魚津市市長の村椿 晃市長が本学へ来訪しました。当日は仲野隆士副学長と女子軟式野球同好会部長の岩田純准教授、女子軟式野球同好会キャプテンの佐藤愛都さんと佐々木惟さんが対応しお話を伺いました。

魚津市は全日本女子野球選手権の会場として全国から女子軟式野球愛好家たちの誘致にたいへん力をいれていることから、今回の本学訪問となりました。村椿市長は「是非来年も大会へ出場していただき魚津市で女子野球を存分に楽しんでほしい。お待ちしております。」と話されました。



(写真左から) 岩田准教授、仲野副学長、村椿魚津市長、女子軟式野球同好会の佐々木惟さん、キャプテンの佐藤愛都さん、魚津市小林秘書係長

阪神タイガース ドラ1の馬場皐輔投手 背番号は「18」

12月4日（月）、大阪市内のホテルで阪神タイガースの入団発表会が行われ、ドラフト1位での入団が決定している馬場皐輔投手も参加し、その席上で背番号が『18』と発表されました。

はじめに金本知憲監督が「阪神タイガースは監督をはじめコーチ、スタッフ陣に優しいメンバーがそろっています。しかし、その環境に甘えずしっかりと成長してほしい」と冗談交じりにあいさつ。続いてドラフト指名順に選手紹介がなされ、馬場皐輔投手から自己紹介がスタートし、引き続き行われた記者会見では、初めて阪神タイガースのユニフォームに袖を通した馬場投手は「阪神タイガースの一員になったことを改めて実感しました。1軍で登板し、チームに貢献できるように頑張っていきたいです」と力強く答えました。また、背番号については「素晴らしい番号をいただいたと思っています。この素晴らしい番号に恥じぬように自分へプレッシャーをかけ続けていきたいです」と語りプロの世界での活躍を誓いました。

入団発表会終了後には阪神タイガースファンとの交流イベントも開催され、サイン色紙のプレゼントや写真撮影をこなすなど、早速プロ野球選手としての一步を踏み出していました。



(上) 金本監督と握手をする馬場投手
(下) ボールを片手にガッツポーズする馬場投手

「平成29年度仙台大学親睦会総会・忘年会」が開催されました

12月1日（金）ウェスティンホテル仙台において、平成29年度仙台大学親睦会総会・忘年会が開催され、法人事務局より朴澤泰治理事長・学事顧問をはじめ安倍常務、佐野常務、櫻井理事、藤田理事にご出席いただき、150名という多くの参加者で賑わいました。

最初に総会では、藤井久雄副学長の挨拶から始まり、幹事からの年次・会計報告及び平成30年度の新役員の紹介がありました。

次に忘年会では村上幹事長の開会後、来賓として朴澤理事長・学事顧問のご挨拶、荒井龍弥教授の乾杯に続き今回は開学50周年記念ということで仙台大学出身のサプライズゲスト2人をお呼びしました。1人目は、東北楽天ゴールデンイーグルスのチアリーダーとしてご活躍されている上田亜樹さんより、チアダンスの披露が行われ、華やかな雰囲気を作ってくださいました。2人目は、お笑い芸人としてご活躍されている赤津大輔さんより、すもうとエクササイズを融合した「すもササイズ」という独自のネタをご披露下さり、会場の雰囲気を盛り上げて頂きました。その後は大抽選会を行った後、阿部芳吉学長の閉会の挨拶を頂戴し、和やかなひとときはお開きとなりました。

今年の親睦会は村上幹事長、黒澤先生、山梨先生、柴山先生、青田さん、野村さん、山田が担当しました。1年間本当にお疲れ様でした。

来年は、新幹事長に早川先生、佐藤周平先生、坪井先生、溝口先生、鈴木将士さん、鈴木美生さん、浅野勝成さんが選出されました。来年度も、どうぞ宜しくお願い致します。

【報告：仙台大学親睦会平成29年度幹事 山田 大進】



来賓のあいさつをする朴澤理事長・学事顧問

軟式野球部の千葉亮太選手が日本代表に初選出されました

12月8日～10日にグアムで開催される全日本軟式野球国際親善大会の日本代表に軟式野球部の千葉亮太選手（体育学科4年－宮城・石巻商業高校出身）が初選出されました。

代表に入るためには書類審査や実技試験があり、手が届かなかった昨年に引き続き2回目の挑戦で日本代表に選出されたものです。

千葉選手は「大会では自分よりレベルが高い選手がたくさんいると思う。今の自分の力を試しつつも、一つでも多くのことを吸収したいと思う」と語り、念願であった初の国際大会に臨みます。



日本代表に選出された千葉選手

第69回全日本大学バスケットボール選手権大会 女子バスケットボール部が3年ぶりに出場

11月28日から12月3日まで、カメイアリーナ仙台で『第69回全日本大学バスケットボール選手権大会』が開催されました。長い歴史の中で、仙台開催は初めてです。東北からは3チーム出場でき、仙台大学女子バスケットボール部は、3年ぶり14回目の出場となりました。

初戦に昨年優勝の白鷗大学と対戦しました。開始早々、ガードの工藤（3年）が積極的に攻撃を仕掛け、仙台大の流れで試合が運び、第1ピリオドはリードして終わることができました。しかし、第2ピリオド以降、相手のディフェンスのプレッシャーが厳しくなったうえに、留学生センターの高さに苦戦し、大量得点を許してしまいました。その後は高さに対応できず、後半は終始リードされる結果となりました。結果は、66-92と大差で敗れたものの、身長170cmのセンター金成（3年）が、188cmの相手からリバウンドをもぎ取ったり、1on1で得点するなど頑張っていた姿は、素晴らしかったです。

キャプテンの最上（4年）は「後輩たちには、毎年全国大会に参加し、勝てるチームになってほしい」とエールをおくってくれました。今大会で、4年生は引退です。ベンチ入りしていたメンバーの4年生全員がコートに立ち、最後まで一生懸命戦い、更にそれぞれが得点することができました。4年生が戦っている姿は、後輩たちの今後の力になると信じています。

選手も応援席も一つになって戦い、会場中に仙台大の声援が響き、観戦していた方からは、「感動した」とのお言葉をいただきました。来年は、東京で開催されます。目標を高く持って、挑戦し続けたいと思います。

この日は、平日だったにも関わらず、たくさんの方が会場に足を運んでくださりました。大きな声援は、選手の励みになったと思います。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



（上）果敢に攻める仙台大学チーム
（下）試合終了後の集合写真

【報告：女子バスケットボール部 監督 助教 菅野恵子】

全日本ウエイトリフティング学生新人選手権 2種目で優勝

全日本学生ウエイトリフティング新人選手権大会（10月20～21日）に本学ウエイトリフティング部から2名が出場しました。阿部芳吉学長も会場に駆けつけてくださり、選手たちの応援をしていただきました。男子105kg級保科魁斗（体育学科2年）は、スナッチ120kg（6位）クリーン&ジャーク160kg（優勝）トータル280kgで優勝、女子75kg級福塚真羽（体育学科1年）は、スナッチ73kg（優勝）、クリーン&ジャーク91kg（優勝）、トータル164kgで完全優勝しました。

【報告：ウエイトリフティング部 監督 壹岐 優】



男子105kg級で優勝した保科選手

女子75kg級で優勝した福塚選手

ウエイトリフティング全日本女子選抜選手権 女子75kg級で福塚選手 3位入賞

福井県小浜市で第9回全日本女子選抜選手権（11月22日～23日）が開催され、53kg級に渡部詩乃（体育学科3年）、75kg級に福塚真羽（体育学科1年）が出場しました。福塚は、スナッチで71kgに成功し4位でしたが、得意のクリーン&ジャーク種目の2本目で90kgに成功し3位を確定させ、続く3本目も94kgを確実に成功させてトータル165kgで3位入賞を果たした。渡部は、スナッチで1本成功に終わり55kgで15位、クリーン&ジャーク73kgで13位、トータル128kgで15位でした。阿部学長も応援に駆けつけ、気合の入る応援で選手たちを鼓舞していただきました。

【報告者 ウエイトリフティング部監督 壹岐優】



表彰台に立つ福塚選手（左から3人目）

CSULBのカールトン・フォルテンベリーさん テレビ東京「YOUは何しに日本へ？」で放送予定

開学50周年記念行事として、11月1日に仙台市太白区ゼビオアリーナを会場に実施したInternational Friendship Event (IFE)に参加するため来日したカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）の大学院生・カールトン・フォルテンベリーさんが、テレビ東京系列局で毎週月曜日の夜6時55～からオンエアされているユニークな番組「YOUは何しに日本へ」から取材を受け、その様子が来年2018年1月1日（月）に放送予定となりました。

この番組は、日本を訪れた外国人の方々にその場でインタビューし許可を得た場合、密着取材をするドキュメントバラエティで、来日者の目的を知るとともに、彼らの目を通して日本の素朴な良さを再発見するユニークな取り組みにファンも多く、広く知られています。

仙台的な伝統的な「すずめ踊り」を練習するため、他大学より1日早く10月29日に仙台空港へ降り立ったカールトンさんに、同番組クルーがインタビューし、CSULBと提携する本学の開学50周年記念に招かれ、仲間たちと「すずめ踊り」を披露することの番組での紹介をご本人が快諾したものです。

テレビ東京の製作会社より、このお話を打診された時点でCSULBを引率した1人である、国際協力協定開発担当・マネージング・ディレクターの古谷仁氏経由でカールトンさんの意思を再度確認いただいたところ「カールトンは放映に全く問題ないと申しており、CSULBがこのような形で仙台大学のお招きに対し、僅かながら恩返しができれば大変ありがたいです」とおっしゃっていました。テレビ東京はあいにく東北地方で放映されておらず、後日、放送された映像を入手する予定ですが、同番組は不定期に土～日・東北放送（TBS系列）で再放送されるケースもあり、IFEの貴重な後日談として放映が楽しみです。



カールトン・フォルテンベリーさん



番組名 YOUは何しに日本へ？
放送局 全国テレビ東京系列局
放送日 毎週月曜日の夜6時55分～ ※2018年1月1日（月）放送予定
司会 パナマン
番組内容 日本を訪れた外国人の方々にノープointでインタビュー及び密着取材をするドキュメントバラエティ。外国人の方々の訪日目的を知るとともに、彼らの目を通して日本の素朴な良さを再発見する番組です。